

縦書き文書

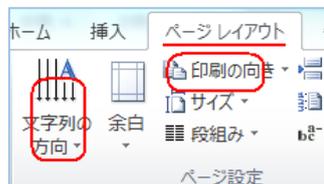
Wordで縦書き文書を作ってみましょう。ここでは先ず横書きのべた打ち原稿を作っておき、それを加工して、ページレイアウト（印刷の向き・文字列の方向）、フォントの指定（文字種・サイズ）、行間の設定、ルビ、テキストボックスなどを学習しましょう。この操作は年賀状の作成等にも活用できます。
 （練習用の文章は今日の読売新聞から拝借しました）

1. べた打ち文書

装飾前の文字（文字データをテキストと呼びます）を段落（文頭から改行マークまで）単位で打ってゆきます（デスクトップに適宜の名前で保存しましょう）

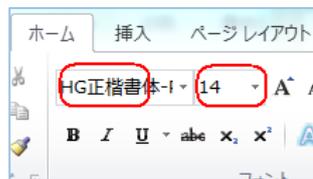
2. ページレイアウト

1で作成した文書を開きページレイアウトタブから、印刷の向きと文字列の方向を選びます、対象は文書全体となります



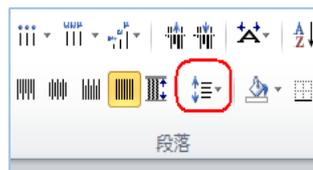
3. フォント

ここでは、正楷書体フォント、サイズは14を選択してみましょう。予めCtrl+Aで全文を範囲指定してから行います。



4. 行間

行間の指定は、段落ツールバーに「行と段落の間隔」ボタンがあります、ここでは1.5を選択してみましょう



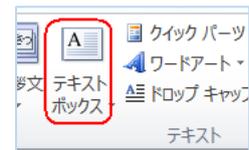
5. ルビ

かなを振りたい語句にルビを振ります。対象文字列を選択して、ルビボタンです。表示されたウィンドウでふりがなを修正して完成させます

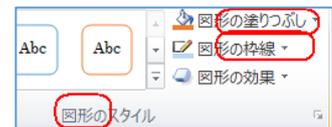


6. テキストボックス

縦書き文書の中に、横書きの文字を使いたいことがあります、年賀状を作るときの差出人郵便番号などです。挿入タブ>テキストグループのテキストボックスから横書きテキストボックスです。



既定値で背景色は白、枠線付きとなりますので、テキストボックスをクリックして、描画ツール>書式>図形のスタイルグループで、塗りつぶしなし、枠線なしを選びます



十八世に捧げる初日
 ―歌舞伎座こけら鉢とし
 新開場した東京・銀座の歌舞伎座では、こけら鉢とし興業初日の2日、夜の公演まで、人気俳優が続々と熱演を繰り広げた。3年ぶりの歌舞伎の観客復活に劇場は終日、歓声に包まれた。
 午前11時開始の第一部の舞踊「お祭り」では、昨年12月に惜しまれつつ亡くなった「十八世中村勘三郎に捧ぐ」と題して、勘三郎さんの長男勘九郎さん、次男の七之助さん、勘九郎さんの2歳の長男、七輪八さんが出演。「中村盛」ファミリーが花道から登場すると、場内から大きな拍手が起きた。

Memo
